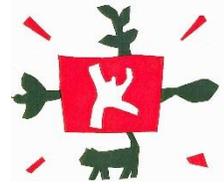




共同通信



2018年3月15日 259号(468号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 157

「世の中で大切なこと」

学識も大切ですが、世の中にはもっと重要なことがたくさんあることを幼子から学ぶことができます。それは、泣くこと、ミルクを飲むこと、排泄すること、寝ること、笑うこと、などです。幼子たちは、自分の身を守る手立てがありませんので、まさに無防備のきわみです。幼子たちは世話を受けてばかりいます。しかし、2世紀半ばに成立した『トマス福音書』という初期キリスト教文献があります。その中に、「日々を経た老いたる者は、生後七日の小さな子供に命の場所について尋ねるのをためらわないであろう。そして、その者は生きるであろう」(新免訳)という言葉あります。幼子という存

在をいのちのかたまりとして認識し、人間存在の理想態として言い表した美しい言葉です。原初的なこと、すなわち、いのちの場所について、老人が、生まれたばかりの混じりけのない幼子に尋ねるといのは、まやかしを常に内在させている世の中のシステムや序列の究極の逆転です。幼子たちを見て、周囲の大人たちが和むのは、こういう逆転があるからです。

わが家が家庭保育事業に参加し、八ヵ月児から三歳児までの五名の幼子たちと接して思うことは、自分の足元に希望が広がっているということです。世の中は虚飾に満ち、暗いことがたくさんありま

時代にふり回されるのではない

自分の人生を語ってほしい、

あの時 心を躍らせて生きた

自分の人生を語ってほしい、

後悔に 身をふるわせたこともある

自分の人生を語ってほしい、

笑い 泣き 歯ぎしりをした

自分の人生を語ってほしい

今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい

すが、また、悲惨な事件もたくさんありますが、目の前にいる幼子たちに希望を託すことができるのではないかと思います。幼子たちが育つには、ありとあらゆる人たちの協力が必要です。親たちの役割は確かに重要ですが、働く若い親たちにすべてを負担させるのは今の時代では酷なような気がします。私は、市民が子育てに協力するという観点を多くの人たちが共有することが大切と考えています。自分の家のスペースを保育室として提供できる市民は、ぜひそうすればいいし、楽しみながら子育てに協力できると思います。現在、パートさんたちは4名います。いずれも子育てを終えた方たちばかりです。それぞれの都合に合わせて、午前勤務の場合もあれば、午後勤務の場合もあります。必要に応じて勤務時間は調整します。

朝7時半から6時半までの預かり時間、可能な限りお世話をし、無事に親たちの手に戻してあげてをいつも念頭に置いています。送り迎えの時間は親たちの仕事の都合もあり、様々です。しかし、自分の親がいつもの時間に迎えに来ないと、幼子は少し動揺します。時計を持っているわけでもないのに、そういうことには敏感です。

幼子たちは親善大使です。散歩をしている時、幼児たちを見る近所のお年寄りたちの視線も優しく感じられます。力仕事に励む工事現場の若いお兄さんやおじさんも笑ってくれます。時には、近所の

家に上がり込んで、お菓子を食べる機会もあります。幼子たちが近くの手作りパン屋に行くことも立派な社会見学の一部です。3歳児となると、自分でパンを注文することもできますので、「いちごパン」などを自分で選ばせています。経営者の女性は「なんてかわいいこと」と言ってくれます。幼子は、ふだんはうるさくても、ショーウィンドウに並べられたパンを見ると、長椅子に座って、おとなしく、行儀良くします。ある時、三歳児の男の子を連れて、私は注文していたクリスマス用のシュトーレンやパンを受け取りに行きました。その男の子に注文票を持たせました。その子はそれをしっかりと握って離しません。大切な用事を頼まれているという認識を十分に持つことができる年齢です。行き帰りの途中、その子は寄り道しようとしたり、走ったりしました。こちらもそれに付き合います。その子はそういうことをしたかったからです。

おやつや昼食の時間は、幼子たちにとってはきわめて重大な時間です。遊んでいる時も、冷蔵庫が気になってばかりいます。じっと冷蔵庫をながめている子もいます。そこから取り出されたものが調理されて、自分たちの口に入ることをよくわかっているからです。食べている時の幼子たちは、とても幸せそうで、あちこち散らかしながら、時には顔面に浴びるようにしてスープを飲むこともあります。やはりていねいに作ったものは、おいしく食べてくれます。確かに、「いのちの場所」をこちらから尋ねたくなるよ

うな幼子たちです。

幼子が描く絵は、何を描いているか判然としなくてもあります。それ自体が、魅力的です。しかし、成長過程で、言葉を覚え、知識を身につけ、観察力を身につけていくにつれて、きっちりとした静物画を描くようになります。リンゴをリンゴとして、花瓶を花瓶として描くようになります。その一方で、新鮮味やいのちの輝きも薄らいでいきます。人間が賢くなるというのは、そういうことでもあります。人間が賢くなる、少し寂しいことです。

幼児期は、あたたかさを感じながら言葉を覚える重要な期間です。あたたかさは、言葉を通して、体の接触を通して、感じられます。たとえば、ワンワン吠えている犬を見て、大人は子供に「そこにワンちゃんがいる」と言葉を発し、子供はワンワン吠えているのが「犬」であると認識し、言葉を覚えるようになります。そうして覚えた言葉の集積が知識となります。人間は、このように周囲との関係性において知識を身につけていきます。

わが国は今、大きく変わろうとしています。国家側が、多様な人間存在を幼児期から老齢期に至るまで特定の価値観で管理する構想がすでに出来上がっています。「人づくり革命」「幼児教育の無償化」

「高等教育の無償化」「私立高等学校の授業料の実質無償化」などがすでに閣議決定されています¹。こうした動きは、人を

存在価値として扱っているのではなく、モノとしてみていることの具体的現れです。その行くつく先は、格差社会どころか、階級社会の出現です。実に6人に1人の子どもが貧困であり²、待機児童も多い。高等教育機関の中退者は11万人を超え、四年制私立大学では平均して8~9人に1人です³。高校の中退者は年間5万人以上⁴、小・中学校の不登校者は約12万人です⁵。これらの「小さなイエスたち」が「生きたい」と叫んでいます。日本人の3人に1人が非正規雇用で働かざるを得ない中、生活に疲弊している保護者たちも増えています。毎日が不安で、夫が妻に当たり散らし、妻が夫を罵倒する痛ましい光景が浮かんできます。深刻なのは、経済的な負債のみならず、心の負債も抱え、心がマイナス状態になっているということです。これでも「人間の国」と言えるのでしょうか。

(新免 貢)

宮城学院女子大学教員

2018年1月、18-24頁)。

² 「子供の貧困率、最悪の16.3% 厚労省12年調査」『日本経済新聞』(2014年7月16日付)。

³ 『ダイヤモンドオンライン』(2012年8月27日；<http://diamond.jp/articles/-/23780>)。

⁴ 2014年3月31日公表「中途退学者数及び中途退学率の推移」(総務省統計局)。

⁵ 「学校基本調査:不登校小中6年ぶり増 前年度比7000人」『毎日新聞』(2014年8月7日付)。

¹ 「新しい経済政策パッケージについて(抄)」参照(全国保育団体連絡会発行『月刊 保育情報 No. 494』、

～どろんこと太陽～2017

西宮公同幼稚園の子どもたち

「年長さんとの一年間を通して」

4月からの日々。あっという間でした。気が付けば3月にです。子どもたちと初めて出会ったのがつい最近のように感じます。そして、何もわからない私にも優しく接してくれたみんな。今でも嬉しかったのを覚えていて忘れられない思い出です。

何といっても驚いたのは、園外へのかけていくその数。何といっても一番の思い出は大阪造幣局、その桜の通り抜けへのお出かけ。人の多さにはびっくり、あまりにも人が多くてはぐれてしまうのではないかという不安と、こんなところまで遠征するんだというその距離への驚きでした。けれど、そんな私の不安とは裏腹に園長先生の後姿を見失わないように、ぐんぐん進んでいくみんな。その、たくましさにも驚きました。三田市の新宮さんのアトリエをはじめ幾つかの美術館、自然豊かな千里北公園、石を拾った須磨浦海岸～。六甲山には2度。山道を歩いていると4月には少しのことで怖いと号泣していたお友達も、1年の時間を過ごして、目をみはるくらいの元気さで「自分の力で歩けるよ」と言っている姿にびっくり。ただ山に登ったりたくさん歩いたから慣れてきたのではなく、公同幼稚園の毎日を通して、縄跳びを楽しむ、また冬になって登場した竹馬に挑戦したり、と日々の生活にいっぱいやってみ

ような思いを持つ出会い、そしてそんな時間を通してやればできるという心が育つから、だからこそ、そういう場面でも諦めずに立ち向かう勇気が心の中に育っていくのだろーと感じています。

少しずつ成長していく子どもたちと日々を過ごせてきたことを何より嬉しく思い、感謝です。

そして、年長といえば、何度も訪れた後川。そこでは春夏秋冬を身近に感じ、自然の中でたっぷり過ごさせていただいた1年間でした。私自身も、初めて出会うものばかりでした。田植えに、綿の苗植えに、泥田にも入ったり、川でたっぷり水と戯れたり、肌で感じて過ごしたその1日1日。そしてその、一瞬一瞬が子どもたちの記憶に残り、ふとしたときに思い出すような素敵な体験だったのだろーうなと思っています。

公同幼稚園の冬の遊びといえば、けん玉に、竹馬に、コマに、あやとりにと夢中になるものばかり！園庭では、毎日竹馬と向き合う姿があって、またそれを教えてくれたお友達にできたから見せに行くというお友達との心温まる話が見えてきたりと、毎日挑戦する心を持ち続ける子どもたち。そんな姿を見ていると、私たち大人も頑張らなければと思わせてくれるそんな日々を過ごしています。

散歩に出かけると、梅の花はどんどんと咲き始め、こぶしのつぼみは、ふっくらと膨らみ、風は暖かく春を感じる毎日。春に近づくとつれ、子どもたちの第一歩

も近づいていることに。ぽっぽさんは、さんぼらったさんに。さんぼらったさんは年長さんに。年長さんは小学生にと。一歩ずつ歩みを進めていくんだらうなあとしみじみしています。新しく進んでいく毎日も子どもたちと寄り添いあいながら、成長できる日々となりますように。

(曾和 采奈)



日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会集会室
聖書研究祈祷会	毎週第1・3水曜日午後7時から	於：西宮公同教会集会室
読書会	毎週第2・4水曜日午後7時から	於：西宮公同教会集会室

(早天祈祷会、聖書研究祈祷会、読書会は、2016年4月よりしばらくお休みしています。)

あんなこと こんなこと

2018年2月24日(土)～

年長作品展

幼稚園舎2階

幼稚園で過ごした何気ないけれども、大切な日常の絵、後川で栽培し成長を見守った綿など、子どもたちの過ごした時間がいっぱい詰まった作品展でした。



2018年2月16日(金)8:45～

にしきたあさいち

アートギャラリー

毎月第1、3金曜の朝8:45～、1時間ぐらいですが、アートギャラリーにて、「にしきたあさいち」を開催しています。丹波より、長井さんご夫妻が、新鮮な季節の野菜をはじめ、たまごや牛乳、ヨーグルト、お米や切り干し大根などの乾物などを持ってきてくださいます。



2018年3月7日(水)

年長後川保育(親子)

5月より何度も通った篠山市後川(しつかわ)での最後のひとときを楽しみました。子どもたちは、校庭をいつものように目一杯駆け回り、お母さんたちは大野山の苔岩まで登り、お昼には後川産の野菜たっぷりの共同鍋をいただきました。



2018年3月9日(金)~11日(日)

小さなお茶会 作品展

アートガラーチ

ほぼ毎月シオサイで開催していた「小さなお茶会」。おすすめの絵本などの紹介をして、様々な催しをしてきました。ポンポンで作るピーターラビット、折り紙などで作ったフレーベルの星、裁縫でおうちバッグなど、たくさん作品を絵本と一緒に展示されていました。



～あるがままに～

「順子先生の出会い日記」

いよいよ3月、年度の終わりです。
1年てほんとに早いですね。

こんなふうになを重ねるとは思っても
いませんでした。工藤直子さんの詩に「し
んぴんのあさ」というのがあります。

この年になって、毎朝今日は何が？と
思いながら、家を出るなんて。

この冬は「今日は外気は何度？」とい
うのが朝のワクワクに加わりました。関
西学院に近い我が家、マイナス5度の表
示だった日も。家の中はおかげさまでの
リフォーム2年目の冬、低くても6～7
度はあるのと、ストーブ着火で一瞬にし
ての室温上昇で寒さをそう感じることも
なく。ただ数え切れませんでした。灯
油缶何缶にだったのかな。

これは園の事務所など周辺もです。会計
さんに尋ねてみると約70缶。園舎は保育
後のみ。換気のよさ！でインフルエンザ
の猛威とはあまりご縁はなく過ぎしま
した。

うん十年前の3月1日、旧礼拝堂で結
婚のお祝いをしていただきました。当時
お世話くださった40から60台だった当
時婦人会の方々、今はお一人だけご存命
なのですが、そんな教会の皆さんとのそ
れぞれの日々が広がっていきました。そ
して10年を経て幼稚園に勤務すること
になります。その時年長だった子どもの

おかあさんが今でも集会室でのランチ
(福in)にお越しくくださるのですが、
長いお付き合いとなりました。

教会には幹事会という組織があります
が、現在の担当のどの方にもみんなそれ
ぞれの思い出が。Mさんは当時年長とぼ
っぼに姉妹を託してくださっていました。
その姉妹ともども40歳を越える、おねえ
ちゃんのほうは兄弟を幼稚園に、そして
今も福inなどのお手伝いに。妹さんは
まずは幼稚園の教師にそして、今は優し
く厳しくの看護師さんです。Mさんはわ
たしのおべんとうをお子さんに託してく
ださったり、うちの子どもたちを呼んで
くださったりとお世話に。

教会学校を担当してくださっていたK
さんは当時4歳くらいの娘を、日曜日に
小学生の集まりに仲間入りさせてよく
面倒を見てくださいました。クリスマス
に子どもたちがワイシャツで作った聖歌
隊のガウンを着て歌う時も娘用のも1枚。
「わたしはすべてのことをKさんに教え
てもらった」と娘は今でも言います。

もうお一人のMさんとはよくあちこち
に出かけました。北海道のキャンプ、往
復ともに船の長旅、いっぱいにお世話に
なりました。いつもはバタバタしている
けれどそういう時間では順子さんはゆつ
たりしているねと言って一緒に過ごす仲
間にしてもらえたのは幸いでした。

出身はわたしと同じ近隣の教会という
Nさん、3人の子どもたち、特に我が家
を「背負っている長男」を気遣い、「おま
えはよくやっている」と当時流行りずい

ぶん高値だったゲームを買ってこいとお小遣いを渡してくださったのも懐かしい。子どもが同年齢だったYさん一家とも夏に冬によく旅行をし、子どもたちを預かってもらったりとどれだけ助けられたことか。

そんな方々が今も公同に関わってくださっていて、時は流れ今度はこんなメンバーがわたしも含め 60 から 70 代にです。

お互いに子どもが大きくなり、孫が生まれたり、何よりそれぞれの親を見送ったり世話したり、まあ忙しく、でも豊かに。

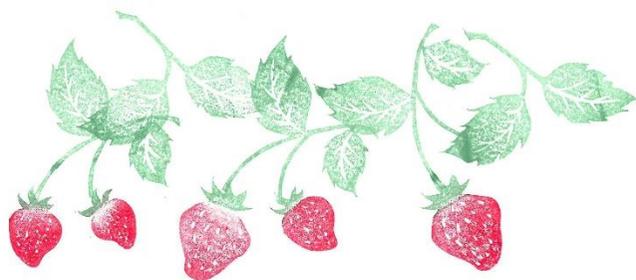
一緒に教会の方々を天に見送ってきましたが、わたしたちはそれぞれの旅立ちの日までどんな時間を過ごしていくのでしょうか。

なんてことをふと考えたりしている 3 月です。

「こうぞう版行動報告書」

介助に来てもらうときの費用について書きます。先月のこのコーナーで書きましたが、外出に関して 35 時間までは市が負担してくれます。当然ながら超過すると現金が発生します。ほかの交通費、入場料・入館料などはすべて利用者持ちです。たいがいの交通費などは本人と介助者ともに半額なので 1 人分の料金で 2 人いけます。食費については割り勘です。

(下平 浩三)



教会の火曜日 10時から12時 於：西宮共同教会集会室

第1火曜日	わいわいお茶会
第2火曜日	ゆっくりと聖書を読んでみませんか
第3火曜日	読書会
第4火曜日	社会のこと、世界のこと

～♪ぼくのみる空ときみのみる空はつながっているから～

「アメリカでも奮闘しています」

9歳になる娘が、日本人のお友達のお母様が教えておられるダンスクラス「にじっこダンススクール」に、6歳の時から通っています。先生のお人柄に惹かれ、どんなことでもいいから自信をつけてほしいという思いから始めさせたダンスクラスでしたが、はや4年目となります。

1年に何度かダンスを披露する機会が持たれますが、昨年初めて「にじっこダンススクール」の全クラスの子どもたち、また大人のクラスの方達も一緒に、発表会が持たれました。それぞれのクラスで発表する機会があったようですが、全クラスが合同の発表会は昨年初めてでした。今年は3月4日の日曜日の午後に2回公演という形で持たれます。現在はその練習に奮闘する日々です。

ダンスの種類はジャズダンス、ヒップホップダンスが主で、大人のクラスではそれに加えてズンバ、ラテンダンスが入ります。私もズンバダンスを習っているので、今回はズンバダンス部門で発表会に向けて練習をしています。

教えてくださっている先生は、小学4年生と3年生のお子様を持つお母様で、日本語補習校の幼稚部のクラスが同じだったことで知り合いになりました。とにかく明るく元気な先生で、その前向きなパワーに惹かれて親子でダンスを習い始めましたが、昨年の発表会の時に初めて、先生が10年ほど前に大きな交通事故に

遭い、両足の骨が砕け、歩くことさえ不可能と診断されたことがあったというお話を聞いて本当に驚かされました。片足は切断する可能性もあったとのことで、現在ダンスの先生をしておられることが奇跡としか表現の仕様がなことがわかり、驚きと感動を受けました。もし奇跡的に歩くことができ、またダンスすることが可能になった時には、誰かのためにダンスをするということを誓っておられたとのことで、それが可能になった今、子どもたち、また大人たちにダンスの指導をしてくださっています。

私はズンバを3年ほど習っていますが、今年は先生に「スマレ（娘）も出るんだからお母さんも出なさい」と背中を押されて出演することに決めました。出演するというので、今回の発表会のダンスは簡単なダンスではあるのですが、それなりに練習が大変で、子どもにいつも「練習しなさい」とか「もっと大きく動いた方がいい」とか自分はダンスが出来るわけではないのに色々ときつく言ったりもしていましたが、今回自分があまりにも下手で、練習が毎日でも必要なことがわかり、子どもに「お母さんも頑張るから一緒に頑張ろう」と言えるようになりました。

自分の出番や動きに恥じらいを覚え、うじうじしているところに、友人のお母様がこんなことを言ってくださいました。

「私はいつも、子どもたちのお母さんが踊っている姿に励まされてるんだよね。子どもと一緒にステージに立って踊っているお母さんってとっても素敵だと思う」と。そんな発言を聞いて、そういえば自分自身も、いつも子どもたちのお母様たちがダンスをするのを見て励まされたり、歳を重ねても体を動かし笑顔で見ている方々に元気を与えたりすることができるお母様方をとても素敵だと思ってきました。今回は自分もそのようなメンバーの中に少しでも入ることができているんだなと思え、さらに練習を重ねて、本番を笑顔で迎えたいと思っています。

(山本 知恵)



名護ぬ七曲(66)

沖縄の文化 8 仏教伝来・文芸

沖縄は中国との関係が深かったことから当然文化的にも大きな影響を受けていると言えます。首里城の構えや色彩も、ヤマトの一般的なお城よりも、北京の紫禁城をギュッと小っちゃくしたような感じに近いかなと思います▼中国の影響が大きかったとはいえ、中国からだけしか影響を受けなかったというわけではありません。沖縄は海洋交易路の交差点みたいな場所でもありましたので、世界中の様々な文化が少しずつ織り交ぜられた独自の様式を確立していくことになります▼また戦争と基地の存在も、近現代の沖縄の文化形成に少なからず影響を与えてきたことも決して忘れてはなりませんね。

【仏教の伝来】 ヤマトから伝わって来た文化の一つに仏教があります。インド・中国からではなくヤマト経由なんですね▼沖縄に初めて仏教が伝わって来たのは13世紀中頃だそうです。禅鑑が浦添に極楽寺(臨済宗)を開いたのに続き、14世紀には頼重が波上山護国寺(真言宗)を建て、15世紀に芥隠(臨済宗)が伝道に来てからは王府の保護のもとたくさんのお寺が建立されました▼僧侶たちは仏教の教えだけでなく、文字や書画などの芸術も伝えたそうです。でも「仏教が庶民の生活のなかに浸透することはありませんでした」(『ジュニア版 琉球・沖縄史』66頁10行目)とのこと。どうしてかってこと

はこの本には書いてないのですが、多分みんな仕事で忙しかったのでしょね。

【『おもろさうし』】沖縄には古くから「おもろ」という叙事歌謡があります。「おもろ」は「歌」でそれをまとめて冊子(草紙)にしたのが「おもろさうし」ですね。全1554首が22巻にまとめられているそうです。おもろの編纂も首里王府の主導で進められた事業の一つ。

【三線】実用工芸楽器としての三線も、三線の音も、またその乾いた音で繰り出される独特な6音階(ド・レ・ミ・ファ・ソ・シ)も私は大好きです。弾けません...▼三線は14世紀後半頃に中国から伝わってきたと言われています。ボディに使われる木材は、良く分かりませんがいろいろあるみたいです。ホロウ構造ですが中をネックが貫通しています。ボディサイドには胴巻布が当られていて超お洒落。トップ材は蛇革で、ネックは基本エボニー。指板なし。当然フレットもありません。糸巻きが摩擦式なので演奏中にどうしても音が微妙に狂ってきます。それを押弦の位置で微調整しながら弾くのだと思います。その時にフレットがあるとかえって邪魔になるというわけですね。おまけに持って構えた時にどうしてもヘッド側が下に落ちるというバランスの悪さ。(ギブソンのSGみたいに演奏中左手でずっとネックを支えとかないといけない)▼それでもこの一見不便な伝統スタイルが現在も貫かれているのは、多分これが最も美しい姿だからなのだと思います。音が狂いにくいからといって糸巻き

を機械式のペグなんかに換えたりしたら、それだけでたちまち美しくなくなってしまふのです。

【琉歌】八・八・八・六の定型30音で詠まれる沖縄の叙事叙情詩。伴奏付きで詠われることもあります。

【組踊】三線はやがてヤマトにも伝えられ、三味線として仕様改良され人形浄瑠璃などの伴奏楽器として活躍します。その浄瑠璃などの日本歌舞劇をお手本として作られたのが「組踊」。私は組踊の実際の舞台をまだ観たことはないのですが、オキハムのCMで“♪わんやオキハムぬうみないどやゆる〜”ってやってるのはテレビでよく見ます。大按司が登場するパターンのやつもあります。

おお、そういえばこれを書いている今日(3月4日)は3(サン)と4(シ)でサンシン＝「さんしんの日」。私も挑戦してみたことはあるのですが...手に負えませんでした。しかも譜面が縦読みで漢字。ブルースやロックと違ってその辺の自由さが許されない楽器なので、マスターするにはちゃんと先生から習った方がよいのかもしれないですね。

(羽柴 禎)

住居は人権

「守心」の生活し、
生業を業しむしの正念。
其者として政治の根幹と
考えらるべし。



「紀元前12世紀の中国に
「安居樂業」の政事あり。

あゝ癒やされる。



毎日忙がしい私たちが

21世紀の日本ではー
ネットカフェ難民
路上生活者...



狭小過密遠距離居住、
高向家賃、重いローン負担、
「ネクラ」が大変...

「Off」
「iji」
「海」



「うたくん」

自国の国民の生活を
貪しいままにしていて...
「ウチが小屋に住む働き手多
くは許されない」

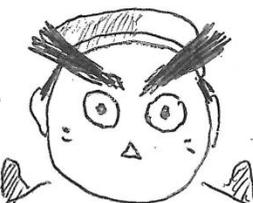
日本が国際社会の一員と
して尊敬されるためには
「住宅先進国」である西欧
諸国の住居思想を学ぶ必要
がある

怒

ゆづくん



住居は人権である(国際機関の定義)
ーか通らないこの国の後進性



この二人に救われたい
と願ふ



『住居福祉資源』の思想』早川和男著/集信堂 2017 14/31刊

イースター記念礼拝

日 時 : 2018年4月1日(日)

午前10時45分～

場 所 : 西宮共同教会 礼拝堂

礼拝後、一品を持ち寄っての愛餐会が行われ、一緒に食事のひとときを用意しています。どなたでも気軽にお残りください。その後、住吉霊園にある、教会、幼稚園の共同墓地を訪ねます。

*子どもたち(教会学校)のイースターの礼拝、活動は、9時からです。



～つとがわ・おれこれ～

教会の新年礼拝のプログラムの右には、かなり前から「詩」らしきものを書いてきました。2018年は「オキナワ・コドモ」でした。

手を差しのべるのは
手の平に
温もりのある人だ
手を差しのべてはならない

罵るのは
心の中を流れる
涙を拭うことのできる人だ
罵ってはならない

笑うことができるのは
世界の未来に
希望を失わない人だ
笑ってはならない

泣くことができるのは
握ったこぶしで
見えない壁をたたく人だ
泣いてはいけない

自分を生きて歩くのは 自分だ

オキナワ・コドモ

これの「詩・刺繍」と、ヤンバルクイナの刺繍が幼稚園の卒園の文集の表紙になり、詩は見開きページの文章として、そのまま使わせてもらうことになりました。そこには、2017年から2018年にかけて、子どもたちと出掛けたりした時の12枚の写真も使わせてもらいました。いずれも少なからず自慢に思っている花の写真です。

ひまわりの写真は、もちろん幼稚園の畑の前年に落ちた種が自力で芽を出したひまわりです。今まさに、咲こうとしているひまわりのガクの開き始めは、荒々しいとげのように見えますが、見た目よりうんと柔らかかったです。

桜は、幼稚園の庭で咲いた桜です。桜は、枝の先端部分で多く花を咲かせますが、太い幹の途中で、ちょこんと咲かせているのを見つけると、小さくても世界の仲間入りをしようとする生きものに出会って嬉しくなります。

かりんは、春先、幼稚園の庭で花を咲かせるトップバッターです。冬が終わって確実に春が始まっていることを、小さな薄緑色の新芽がその始まりの合図です。

このあたり、西宮でもタンポポはどこでも咲きます。いいえ、飛ばした種がほんの少しの土を見つけ、ちょっとだけ土に潜り、そして芽を出すのは偶然、あるいは奇跡に近いのです。

すみれは、篠山市後川（しつかわ）の旧後川小学校と、羽束川（はつかがわ）の間を走る道路脇で咲いていました。砂埃が道路脇のコンクリートのブロックの隅に風や雨で、飛ばされ流れ集まったほんの少しの土をいとおしむようにして毎年ちょっと違う場所ですが、確実に咲いています。

幼稚園の畑では、3月中旬に種ジャガイモを植えます。包丁で半分に切って、切り口にパン窯の灰を付け、その部分を下にして埋めると、一つの種イモから2～3本の芽が別々に土の中から顔をのぞかせます。昨年、そのジャガイモの畑には数えきれないひまわりが芽を出し、両方で激しい光取り競争を演じましたが、どちらかという引き分けでした。

藤の花は、5月ごろの篠山市後川の里山で咲き始めると、その場所が遠くからでもくっきりと見分けることが出来ます。里山の木々も、人の手が入りにくくなり、どンドン枝を伸ばし広げているその木々と競争するように藤のツルが巻き付いて、中には木を包み込むようにして花を咲かせるのです。

卵の花は、薄い赤と白の両方あって、篠山市後川では、薄い赤の卵の花が先に咲き始めます。持ち前の生命力でしぶとく生きる卵の花は、教会、幼稚園の前を流れる津門川の石垣の隙間で、切られても切られても、毎年枝を伸ばし、白い花を咲かせます。

篠山市後川で借りている不耕作の田んぼには、一年中水がはられていて、田んぼビオトープになっています。3、4年前から、子どもたちが田植えで余った苗を植えていましたが、昨年初めて収穫にまでこぎつけました。「不耕起栽培」の大成功で、40～50株で、約5キロの収穫でした。

子どもたちと11月の六甲山（石切道）を歩いて見つけたアケビのような実は、ムベです。アケビは、熟すと実が開き、山の生き物たちの大好物の食べものになりますが、開かないムベは、11月になっても残っていたりするので。指先で割ると中味は、味も種も見た目もアケビと変わりません。

篠山市教育委員会で譲ってもらった綿の種は、育て方を調べ幼稚園の畑などでも蒔いてみることになりました。そんなに手入れをしなくても育て、コットンボールの可愛いのが嬉しく、細々と毎年子どもたちの綿栽培になっていました。去年は、篠山市後川で、本格的に綿の栽培をしている人に手伝ってもらい、大量のコットンボールを摘むことになりました。

沖縄県名護市辺野古で咲いていた月桃です。同じ頃

に咲いているのがイジュです。1月末に辺野古から港に降りる坂で咲いていた桜（寒緋桜・カンヒザクラ）は2月末に訪れた時には若緑の葉っぱに代わり、ツツジが満開でした。座り込みの人たちのトイレにもなっているカヌー隊の基地では、ムラサキカタバミ（沖縄語ではヤファタ）が咲き、フェンス越しのキャンプシユワブの芝には、四季を問わず西洋タンポポが咲いています。

幼稚園の卒園文集「自分を生きて歩くのは 自分だ」に使わせてもらった写真は、A3 サイズに拡大し2回に分け、教会のウインドウ、アートガラーズのボードに貼らせてもらいます。

(K)

引っ越しを前に、実家に借りていた細長い一枚板2枚を返しに行きました。昔に祖母が和裁机として使っていた物でしたが、実家の物置にあったそれを一昨年の夏のオリンピックの後、卓球台にしようとして借りました。

私の子供だった頃、いつも座って着物を縫っていた祖母の姿を今でもよく覚えています。和裁の稼ぎは父達兄弟を育てるのに随分と助けになったようです。太平洋戦争前後の時代です。敗戦時7歳だった父が幼少の数年を過ごした疎開先から戻ってきて、空襲のあとの町でどんなふう生きようとしてきたのかなと考えています。私が祖父母を間近に見ていた生活は、嫁である母の苦勞なしには為され得なかったのですが、さて、お気楽に生きている私は次の世代に何を伝えるのか…。

(Y)

最近運動不足なので、また走りたいな～と思ながらもなかなか今は実現できません。子育て支援センターでは、ヨガやベビーピクスなど、身体を動かしてリフレッシュできる講座がいろいろあります。キックエクササイズやズンパ体験などもあるみたいですが、私はヨガとベビーヨガ、ベビーピクスに参加しました。ヨガの経験がほとんどなかったので、バランスを取るのにブルブル震えながらポーズをしたり、身体が固くて必死に伸ばしたり～。でもすごく気持ちがよくて、心地よい音楽と共にリラックスもできました。45分ほどのヨガの時間、その間は子どもを預かってくれます。戻ると赤ちゃん達の泣き声が響きわたっていて、娘は泣き疲れてパウンサーで眠っていました。

ベビーピクスは子どもと一緒に。「いないいないばあ！」で腕を大きさに動かして肩甲骨を開く運動をしたり、子どもをおなかに乗せて仰向けに寝て、お尻を持ち上げてヒップアップの運動をしてみたり～。なかなかハードでした。

運動しなくちゃと思っていても普段はなかなかできないので、こんな風に子どもと一緒に楽しめる場があるのはとてもありがたいです。

(C)

下の息子が、小学生のころから花粉症を発症し始めました。2月中旬ぐらいから目はかゆい、くしゃみ鼻水の世界で…、大変そう。うちでは彼だけなのですが、この時期になると一気にうちのティッシュペーパーの稼働率がぐんと上がります。以前は、前もって耳鼻科に行つて薬を処方してもらい症状を軽減させていたのですが、高校に入る前には「面倒くさい」などと言って、一切何の手立てもせず真つ向花粉と戦っています。まあ、本人の問題なので辛かったら自分で何らかの対応をするだろうと。でも、いつかわたしもくるのだからと、思っています。そんな事考えてもねえ…。

日本でもっとも多い花粉症はスギ花粉で、全体の約70%を占めているそうです。ちなみに、沖縄には杉の木が無いので有病率は非常に少ないとか。

高校2年の彼は、今日山奥にある学校に登校していきました。

(K)

いかなご高騰！昨年が続いて。送っていただいたりするのをひたすらおいしく～のこれまで。高騰でどうなるか、今年も3月に入つてすぐに届きました。

春ですね。

これまでにいろんな春がありましたが、今年も春一番が吹き荒れています。さまざまな種類の春一番（そんなものあるの？）を正面から受けていますが、逃げ場がいっぱいある幸せも。場所はもとより、何より優しいことばに助けられています。

というわけで1年間ありがとうございました。また4月からの1年、どんな「しんぴんのあさ」を迎えられるか。自分次第ですね。

(J)

政治・宗教思想研究会／関西神学塾

《今後の講義予定》

4月13日（金）岩野祐介先生「内村鑑三（48）」

*以後、未定により追ってお知らせします。